



2014 年は私の年です。みなさんよろしく!



新年になりました。少し遅くなりましたが、あけましておめでとうございます。今年も浜松市楽器博物館をよろしく願いいたします。

さて、今年も午年。楽器博物館では新年最初の開館日の1月4日(土)に、お馬さんゆかりの楽器、モンゴルの馬頭琴のコンサートを開催しました。演奏は京都を本拠地にご活躍中の福井則之さんです。言うまでもなく、糸倉に馬の顔の彫刻があるので、中国語で馬頭琴(マートウチン)、モンゴル語でモリンホール(モリン=馬、ホール=弦楽器)と言います。この楽器は世界に何千何万とある楽器の中でも、日本人が大好きな楽器の代表格でしょう。

その理由はいくつかあると思いますが、お馬さんの顔が彫刻されていて親しみが持てることと、ほとんどの日本の小学生が2年生の国語で学習する物語「スー

ホの白い馬」の影響力が大きいことでしょう。少年スーホの愛する馬が、悪い王様に殺されてしまい、スーホはその亡骸で馬頭琴を作ったというお話です。お話では楽器のすべてが馬の体から作られたようですが、現代の実際の馬頭琴は、本体の弦と弓の弦が、馬の尻尾の毛なんですね。

今年の年男、年女ならぬ年楽器の馬頭琴ですが、楽器博物館には、素朴なものから複雑なものまで、いろいろなタイプが展示されています。お馬さんの彫刻も色々です。どの彫刻からも、人々のお馬さんへの愛情が感じられますね。

ミュージアムサロン「馬頭琴」

日時：平成26年1月4日(土)

11:00、13:00、14:00、15:00、16:00(各20分)

会場：楽器博物館 天空ホール

出演：福井則之 入場者：459人

展覧会「五線譜に描いた夢 日本近代音楽の150年」にて所蔵ピアノを展示



2013年10月11日(金)から12月23日(月・祝)まで、東京オペラシティアートギャラリーにて開催された展覧会「五線譜に描いた夢 日本近代音楽の150年」で、楽器博物館所蔵のアップライトピアノ(1899年頃 日本楽器製造株式会社=現ヤマハ)が展示されました。

この展覧会は、東京オペラシティ文化財団、明治学院大学、NHKプロモーション、日本経済新聞社の主催によるもので、明治学院大学図書館附属日本近代音楽館の所蔵資料を中心に、全国の美術館、博物館や個人から提供された貴重な資料を加えた約300点によって、幕末維新时期から現代までの日本の音楽の展開をたどるものです。

展示は「I. 幕末から明治へ」「II. 大正モダニズムと音楽」「III. 昭和の戦争と音楽」「IV. 『戦後』から21世紀へ」の4部構成で、アップライトピアノは、純正調オルガンや紙腔琴とともに、Iの楽器のコーナーに展示されました。

明治から昭和を生きた作曲家の自筆楽譜や、多種多様な楽譜、演奏会のパンフレット、写真など、西洋音楽の摂取と発展に賭けた先人の思いと努力が伝わってくる展示でした。

展示資料を網羅した素晴らしい図録(写真下)は、オペラシティ内の売店で販売されていますので、ぜひご利用下さい。

「ドラムス&ヴォイセス」日本アセアン友好協力40周年コンサート

2013年12月18日(水)午後7時より東京オーチャードホールにて、日本ASEAN友好協力40周年記念のコンサート「ドラムス&ヴォイセス」がありました。国際交流基金とBunkamuraが主催したもので、タイ、ベトナム、ミャンマー、カンボジア、ブルネイ、ラオス、日本の7カ国の音楽家がソロやアンサンブルで太鼓や打楽器をメインにお国柄を披露し、聴衆に大きな感動を与えました。

どの国の音楽も音階やリズムに特徴がありますから、ソロでは問題がなくとも、合奏となるとうまくいかないのが常です。しかし、今回はその部分がうまく解決されており、なおかつそれぞれの国の音楽の特徴を失うことなく、素晴らしいアンサンブルを披露してくれました。

楽器博物館は2013年7月にミャンマーの演奏家が来日した時に所蔵楽器のサイン・ワインを演奏していただいた経緯もあり、館長がこのコンサートに招待され、レセプションにて各国のメンバーと交流を持ってました。

2015年からは日本政府のアセアン文化交流予算も十分に用意されるとのことで、楽器博物館でもアジアの演奏家との交流が活発になりそうです。



博物館ロビーに新タペストリー 現代の「奏楽天女」



博物館入口前のロビーはガラス張りの明るい空間です。西側の壁面には、西洋楽器を奏でるイラストのタペストリーが吊るされていますが、南側の壁面にも、新しいタペストリーが設置されました。イラストはアジアの楽器を奏でる天女像で、西側タペストリーと同じく画家ハラダチエさんの作品。

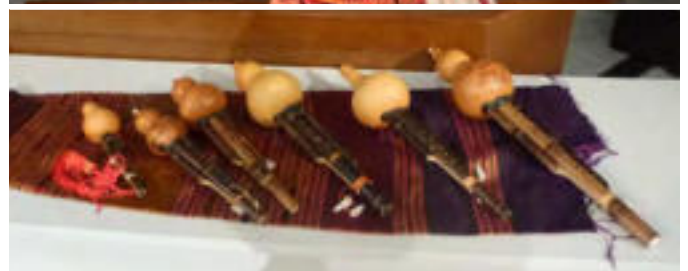
楽器を奏でて空を飛ぶ天女の像は「奏楽天女（そうがくてんにょ）」と呼ばれ、敦煌の壁画や、仏教寺院の阿弥陀来迎図などの壁画によく登場します。今回設置されたのは、琵琶、鉦（ばつ）＝シンバル、箏、方響（ほうきょう）＝鉄の板を吊り下げたもの、太鼓、笙を奏でる天女の6種類。東洋＝アジアの香りが漂う、素敵なイラストです。

新年ミュージアムサロン ひょうたん笛「フルースー」

2014年1月5日（日）、ミュージアムサロン「フルースー」を行いました。演奏は国立民族学博物館外来研究員の伊藤悟さんです。

中国雲南省徳宏州にはタイ族の人びとが暮らしています。伊藤さんは、彼らの生活や音の文化を長年研究し続けています。2013年の9月に、当館で講座を行い、タイ族に伝わる歌と文化についてのドキュメント映画とひょうたん笛「フルースー」のしらべを紹介しました。

今回は、来館者を対象にフルースーの演奏をお楽しみいただきました。フルースーのひょうたんの中にはリード（金属でできた薄い板）があり、息を吹き込むとリードが振動して音になります。「笛」ですが、音の出る仕組みはハーモニカと同じなのです。大きさもさまざまなものがあり、いくつか持ち替えながら演奏されました。昔はこの楽器を使って好きな人に何時間も演奏していたそうです。循環呼吸という奏法で演奏しているので、メロディーは途切れません。管が複数あるので、2～3つの音を同時に出せます。まるで数人で演奏しているかのようでした。コンサート終了後には循環呼吸の方法や楽器についてなど質問をされるお客様がたくさんいらっしゃいました。神秘的な音色はとても心地よく、やさしい気持ちになる演奏でした。



日時：平成26年1月5日（日）
13:30、14:30、15:30（各20分）
会場：楽器博物館 天空ホール
演奏：伊藤悟（国立民族学博物館外来研究員）
入場者：97人

CD新録音～スクエアピアノ、バロックギター、イングリッシュギター



2013年12月に楽器博物館コレクションシリーズCDの新録音をしました。今回の楽器は、スクエアピアノ（1805年頃 ロンドン ラウド/クレメンティ）、バロックギター（1760年頃 フランス）、イングリッシュギター（1770年頃 ロンドン ロングマン&ブレデリップ）、鍵盤付イングリッシュギター（1780年頃 ロンドン トンプソン）です。

ピアノの演奏は小倉貴久子さん。ソプラノの野々下由香里さんとヴァイオリンの桐山建志さんも入って、ハイドンのスコットランド民謡集やモーツァルトのヴァイオリン・ソナタなど当時のロンドンの家庭音楽会を想定した曲目。ギターは竹内太郎さんで、イングリッシュギターには井上景さん、チェンバロに大塚直哉さん、ソプラノに野々下由香里さんが加わり、スパニョレッタやグリーンズリープスなど18世紀の作品集。オリジナルのイングリッシュギターの録音は本邦初ですし、鍵盤付イングリッシュギターの録音はおそらく世界初でしょう。

発売はスクエアピアノが来年2015年の夏頃、ギターが今年2014年の秋の予定です。どうぞお楽しみに。



博物館日誌

- 1/4（土）ミュージアムサロン「馬頭琴」
11:00、13:00、14:00、15:00、16:00 天空ホール
出演：福井則之 入場者：459人
- 1/5（日）ミュージアムサロン「フルーサー」
13:30、14:30、15:30 天空ホール
出演：伊藤悟 入場者：97人

これからの催し物

- 展示室ガイドツアー 毎日曜日 展示品の解説
※催し物により変更もあります。
- 展示品の演奏デモンストレーション 毎日数回
チェンバロや19世紀のピアノなどのデモ演奏

浜松市楽器博物館だより
平成26年1月10日発行 No.85 編集 浜松市楽器博物館
〒430-7790 浜松市中区中央3-9-1
TEL 053-451-1128 FAX 053-451-1129
E-MAIL wakuwaku@gakkihaku.jp URL <http://www.gakkihaku.jp/>

●レクチャーコンサート&レクチャー

「オカリナの故郷イタリアから“元祖”オカリナ七重奏」
レクチャー 2/2（日）13:30 音楽工房ホール
講師：ファビオ・ガリアーニ
（ブドリオ・オカリナ博物館館長）
コンサート 2/2（日）18:00 音楽工房ホール
出演：オカリナ七重奏団 GOB

コンサートのチケットは完売です。レクチャーのみ受け付けております。

●ワークショップ

「韓国の太鼓“チャンゴ”を演奏しよう！」
2/16（日）13:30 研修交流センター 37 音楽セミナー室
講師：リ・チャンソプ

